陸生動物衛生基準委員会の2023年9月会合の報告書に対する 我が国のコメント

我が国は、陸生動物衛生基準委員会（TAHSC）及びその他の関連委員会、ワーキンググループ及びアドホックグループがそれぞれの任務を推進するために尽力していることに謝意を表明する。我々はまた、陸生動物衛生基準の改正案について意見を述べる機会を与えてくれたことについてTAHSCに感謝する。以下の章に関する我々のコメントをご覧いただきたい。

内容

1. 第 4.X 章 バイオセキュリティ	2
2. 第 5.4 章 物品の輸出に適用される措置及び手続	4
3. 第 5.6 章 物品の輸入に適用される措置及び手続	5
4. 第 6.10 章 獣医療における抗菌剤の責任ある慎重使用	9
5. 第 7.1 章 アニマルウェルフェアの勧告に関する序論	10
6. 第 8.8 章 口蹄疫	11
7. 低病原性鳥インフルエンザに関する要請	13

1. 第 4. X 章 バイオセキュリティ

個別コメント

● 第 4. X. 5 条第 6 項の修正案

6) 農業者、獣医師及び獣医関連専門職の団体~~農業者、獣医師、獣医関連専門職、飼料会社、動物の輸送業者及びその他の関係者を代表する職能団体又は業界団体~~は、関連する研修及び助言を含め、会員間でバイオセキュリティを提唱、促進すべきである。

論拠：

第 6 項は、農場を訪問する可能性のある関係者を十分に網羅していない。したがって、明確さ及び網羅性のために修正を提案する。

● 第 4. X. 8 条第 1 項 f の修正案

f) 動物又はその製品と直接及び間接に接触する輸送車両は、使用前及び使用後に消毒すべきである。

論拠：

フィールドで輸送車両の汚染を完全に防ぐことは非常に困難であるため、使用前及び使用後の両方でこれらの車両を消毒することを提案する。

● 第 4. X. 8 条第 1 項 k に関する明確化を求めるコメント

我が国は、「病原体の発生源となりうる他の場所」の意味について説明を求める。例えば、野鳥が頻繁に訪れる家畜農場の近くにあるため池や地表水を含むと理解しているが、この解釈は正確か。また、この用語は他の家畜種にはどのように適用されるのか。この点を明確にするため、表現をより具体的にするか、例を挙げて補足することを提案する。

● 第 4. X. 8 条第 1 項 1 の修正案

1) 病原体(例えば、人、車両、設備、資材)の潜在的なキャリアは、農場に出入りする際に洗浄と消毒をするべきである。洗浄および消毒または他の措置が実行できない場合、または有効性が不明な場合は、病原体の潜在的なキャリア(例えば、人、建物、車両、設備、資材、牧草地、空間)と個体群との間の接触を禁止する追加の期間を適用することができる。この措置の有効性は、特定の状況に依存する。

論拠:

本規定の論理性と一貫性を高めるため。

● 第 4. X. 8 条第 2 項への追記案

2) 内部バイオセキュリティの構成要素:

以下に概説する構成要素は、種、生産形態及びその他の特定の性質などの要素を考慮して、適宜実施され得る。

a) 他の動物が曝露されないように、病気の動物を隔離すべきである。医原性感染を避けるために、安全に治療を行うべきである。

[…]

論拠:

我が国は、病原体の農場への侵入を防ぐこと、すなわち外部バイオセキュリティが第一義的に重要であると考えます。一方、農場内での病原体の拡散を減少させることに焦点を当てた内部バイオセキュリティについては、必要に応じて、適宜考慮され得るものと考えます。

2. 第 5.4 章 物品の輸出に適用される措置及び手続

総論

コーデックス委員会は、食品の輸出入検査と認証システムに関する基準を設定している。現在改正中のものを含めて、いくつかの既存のコーデックス基準は、WOAH 陸生コードの第 5.4 章と第 5.6 章に大きく関連している。既存のコーデックス基準の例としては、CXG 20 “食品の輸出入検査と認証システムの原則”、CXG 47 “食品の輸入管理システムのガイドライン” 及び CXG 60 “食品の輸出入検査と認証システムにおけるツールとしてのトレーサビリティ/製品トレーシングの原則” 等がある。

このことを考慮して、作業の重複を防ぎ、陸生コードとコーデックス基準との整合性を確保するため、我々は、WOAH の基準設定プロセスがコーデックス委員会と緊密に調整されることを要請する。また、今後の作業計画及び採択のタイミングについても慎重な検討が必要である。

3. 第 5.6 章 物品の輸入に適用される措置及び手続

総論

コーデックス委員会は、食品の輸出入検査と認証システムに関する基準を設定している。現在改正中のものを含めて、いくつかの既存のコーデックス基準は、WOAH 陸生コードの第 5.4 章と第 5.6 章に大きく関連している。既存のコーデックス基準の例としては、CXG 20 “食品の輸出入検査と認証システムの原則”、CXG 47 “食品の輸入管理システムのガイドライン” 及び CXG 60 “食品の輸出入検査と認証システムにおけるツールとしてのトレーサビリティ/製品トレーシングの原則” 等がある。

このことを考慮して、作業の重複を防ぎ、陸生コードとコーデックス基準との整合性を確保するため、我々は、WOAH の基準設定プロセスがコーデックス委員会と緊密に調整されることを要請する。また、今後の作業計画及び採択のタイミングについても慎重な検討が必要である。

個別コメント

● 第 5.6.2 条の修正案

一般的考慮事項

輸入国の獣医当局は、国際動物衛生証明書を含む輸入国の要件及び輸入手続に関連する最新の情報(これらの物品の輸入及び経由のために指定された国境検査所のリストを含む)が利用可能になることを担保すべきである。

[…]

論拠：

輸入国の要件が公開されている限りにおいては、モデル証明書又は空白の証明書は、輸出国と輸入国の間の相互合意に基づき、必要な場合にのみ利用可能とすることを検討すべきである。したがって、日本は、国際動物衛生証明書への具体的な言及を削除するか、又はこの観点を反映するように適宜文言を修正することを提案する。

● 第 5.6.3 条第 1 項 b のテキストの移動に関する提案

b) 識別検査

識別検査は、貨物が検査地点に到着した際に、物品、シール（封印）、輸送手段の識別を含む貨物の内容及び表示が国際動物衛生証明書及び添付書類に記載された情報と一致していることを確認するための目視検査として実施する。

~~検査の頻度、検査する物品の数量及びサンプリングの基準は、リスク評価に基づいて輸入国の獣医当局又はその他の所管当局が決定する。~~

論拠:

第 2 段落はサンプリングに関する内容であり、関連性と構成を改善するために、第 2 項（サンプリングと検査）に移動すべきである。

● 第 5.6.3 条の第 1 項 c iii) に対する修正案

iii) 動物製品

獣医当局又は他の所管当局は、輸送条件並びに、表示、温度記録（関連する場合）及び包装材料の完全性を含む輸入国の要件に適合していることを検証するため、貨物の現物検査を実施すべきである。

~~獣医当局又は他の所管当局は、表示が輸入国の要件に適合していることを検証するため、現物検査を実施することができる。~~

[…]

論拠:

輸送条件及び表示要件が輸入国の要件の範囲内にあることを明確にすることを目的として修正案を提案する。

● 第 5.6.3 条第 2 項の修正案

2. サンプルング及び試験

輸入された物品のサンプルングおよび試験は、輸入国の要件国際動物衛生証明書に規定された衛生要件への適合性をチェックする目的で、リスクベースのサンプルング計画に従って、または物品の書類、識別または現物検査から生じる不適合の疑いがある場合に実施することができる。試験は、認可された検査施設で実施されるべきである。

論拠：

章全体における用語の一貫性のため。

● 第 5.6.4 条の修正案

不適合物品に対する追加的な措置

実施された輸入管理に基づいて不適合であると特定された物品は、獣医当局又は他の所管当局によって解放されるべきではなく、獣医当局又は他の所管当局による更なる決定がなされるまでの間、適切な条件下で隔離されるべきである。

[…]

論拠：

本条項中の用語の一貫性のため。

- 第 5.6.5 条の修正案

緊急事態計画

輸入国の獣医当局又はその他の所管当局は、輸出される物品のステータスに影響を及ぼす可能性のある、物品が輸出された後の輸出国内又は物品が経由した後の経由国内におけるリスト疾病又は輸入国の要件で参照されている疾病の発生に対処するための計画を策定すべきである。獣医当局又はその他の所管当局は、物品動物が解放される前に、リスト疾病又は輸入国の要件に参照されている疾病の輸入国内での発生に対処するための計画を策定することもできる。

[…]

論拠：

この規定は、生きている動物だけでなく、広く物品にも適用され得るため。

4. 第 6.10 章 獣医療における抗菌剤の責任ある慎重使用

総論

食用動物は経済的資産と考えられているため、治療の決定は動物の経済的価値と治療費用のバランスに基づいて行われることが多い一方で、非食用動物、特に犬や猫のような伴侶動物は、しばしば家族の一員として扱われている。その結果、非食用動物の治療は費用をあまり考慮せずに優先される。

食用動物と非食用動物の獣医療の目的に、このように重要な違いがあることを考えると、これら二つのカテゴリーの動物を扱う際の「獣医師の責任」については、異なる別々の記述をすることを要請する。

個別コメント

● 第 6.10.6 条第 3 項の修正案

3. 選択された抗菌剤を含有する動物用医薬品の適切な使用

[…]

獣医師は、製剤の投与に関する指示が、食用動物及び非食用動物の繁殖者、所有者又は飼育者に明確に説明され、理解されていることを確認すること。

[…]

論拠：

非食用動物を治療する獣医師は、これらの動物に抗菌剤を投与する際に、潜在的な有害反応と薬剤耐性の発現可能性について、繁殖者、所有者または飼育者に十分に説明する義務があるため。

5. 第 7.1 章 アニマルウェルフェアの勧告に関する序論

総論

日本は、コード委員会に対し、「5つの領域」の概念について理解を深め、関係者への徹底した説明を担保するため、本概念に関する包括的な情報を提供することを要請する。これには以下が含まれる。

- 1) 「WOAH 陸生動物衛生基準委員会の 2023 年 9 月会合の報告書」で言及されている文書、具体的には:
 - a) 2022 年 2 月のコード委員会での要請に応じて、第 7.7 章に「5つの領域」の概念を含めるために事務局とアニマルウェルフェアのコラボレーティングセンター (AWCC) によって作成された「背景文書」
 - b) 2022 年 9 月のコード委員会での要請に応じて作成された、“「5つの領域」の概念を加盟国に説明し、それが現行の国際基準で使用されている「5つの自由」の概念とどのように関連しているかを説明する文書”
- 2) 上記 1 の情報に基づいて、コード委員会が「5つの領域」の概念を第 7.7 章ではなく第 7.1 章に統合するために検討した詳細な論拠と科学的エビデンス
- 3) 加盟国の畜産分野において、「5つの領域」の概念を実践している実例

個別コメント

● 第 7.1.5 条に関する明確化を求めるコメント

日本は、コード委員会に対し、第 7.1.5 条の第 2 項及び第 8 項の「寄生虫」を削除した理由について説明を求める。下痢や血便を引き起こすコクシジウムや、かゆみ、貧血及び吸血による病原体伝播をもたらすダニなどの寄生虫症への対応は、アニマルウェルフェアの向上にとって極めて重要である。

6. 第 8.8 章 口蹄疫

個別コメント

● 第 8.8.2 条および第 8.8.11 条の再考を求める包括的コメント

日本は、ワクチン接種 FMD 清浄国又は地域から非接種清浄国又は地域に、非接種清浄国又は地域の公式ステータスに影響を及ぼすことなく、ワクチン接種動物の輸入を認める改正案に断固として反対する。2023 年の総会で大きな障壁となったこの問題は、新たな科学的エビデンスや代替案が提示されていないため、未解決のままである。そもそもワクチン非接種清浄国又は地域にワクチン接種動物を輸入する論拠はない。これらの国や地域では、定義からして、ワクチン接種動物を自国の領域内で飼養すべきではない。

現行の第 8.8.2 条は、公的な緊急ワクチン接種後の動物園動物の管理措置を規定しているが、家畜に関して提案されている第 8.8.2 条と第 8.8.11 条の改正案は、輸入後の管理措置を含んでいない。相対的なリスクと整合性を考慮すると、輸入されるワクチン接種動物は、個体識別、効果的な隔離、1 年間のサーベイランスなど、動物園動物よりも厳格な措置を受けるべきである。

さらに、輸入されるワクチン接種動物の用途や上限数に関する特定事項がないことも懸念される。ワクチン接種動物と非接種動物の混在は、多数の抗体陽性動物の摘発につながり、疾病管理に混乱をもたらす可能性がある。さらに、仮に輸入後の管理措置があったとしても、その実施は輸入国に過度の行政的・財政的負担を強いる可能性があり、貿易紛争につながる可能性がある。

日本は、コード委員会に対し、コンセンサスの原則を遵守し、すべての加盟国が受け入れ可能な改正案を 2024 年 2 月の会合で提案するよう求める。コンセンサスが得られない場合には、と畜場に直接輸送する場合を除き、ワクチン接種動物をワクチン非接種清浄国又は地域に持ち込むことを禁止する現行規定を維持するよう求める。

● 第 8.8.40 条-第 8.8.42 条の改善を求めるコメント

日本は、2022 年 2 月の科学委員会 (SCAD) の会合において、SCAD が WOHAI に対し、FMD サーベイランスに関するガイドラインの作成を勧告したことを想起する。本ガイドラインは、ワクチン非接種清浄国又は地域へのワクチン接種動物の輸入から生じる影響に対処するためのサーベイランスシステムの設計を支援することを目的としていた。この問題は、2022 年 9 月の TAHSC の会合でも強調されていた。しかし、このガイドラインの策定計画は撤回されたようである。日本は、本章に含める形か別のガイドラインとして、実践的かつ効果的なガイダンスを提供することの緊急性と重要性を強調する。本件は、ワクチン接種清浄国又は地域から、ワクチン非接種清浄国又は地域へのワクチン接種動物の輸入を認める現在の改正案が引き続き残る場合に、特に重要となる。

7. 低病原性鳥インフルエンザに関する要請

最近の研究[Xie, R. et al., Nature, <https://doi.org/10.1038/s41586-023-06631-2> (2023)]によると、高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) A (H5N1) クレード 2.3.4.4b ウイルスは進化により、新しい特徴を獲得したことが明らかとなった。これには、低病原性鳥インフルエンザ (LPAI) ウイルスとの遺伝子再集合を通じて、野鳥に対する感染力の増加やさまざまな動物種への適応力の上昇が含まれる。この進化は、これらのウイルスの制御と排除の重要性を強調しており、感染した家きん群の早期発見と迅速な殺処分といった対策が不可欠である。また、これらは、遺伝子再集合の可能性を減らし、より毒性の高い HPAI 株の出現を防ぐために重要である。

これらの所見を受けて、日本は家きんにおける LPAI を再び WOH のリスト疾病とすることを強く要請する。LPAI をリスト疾病として再分類することは、HPAI の発生を効果的に抑制し、WOH への迅速な通報を保証し、国際的な情報共有を強化するために重要である。